

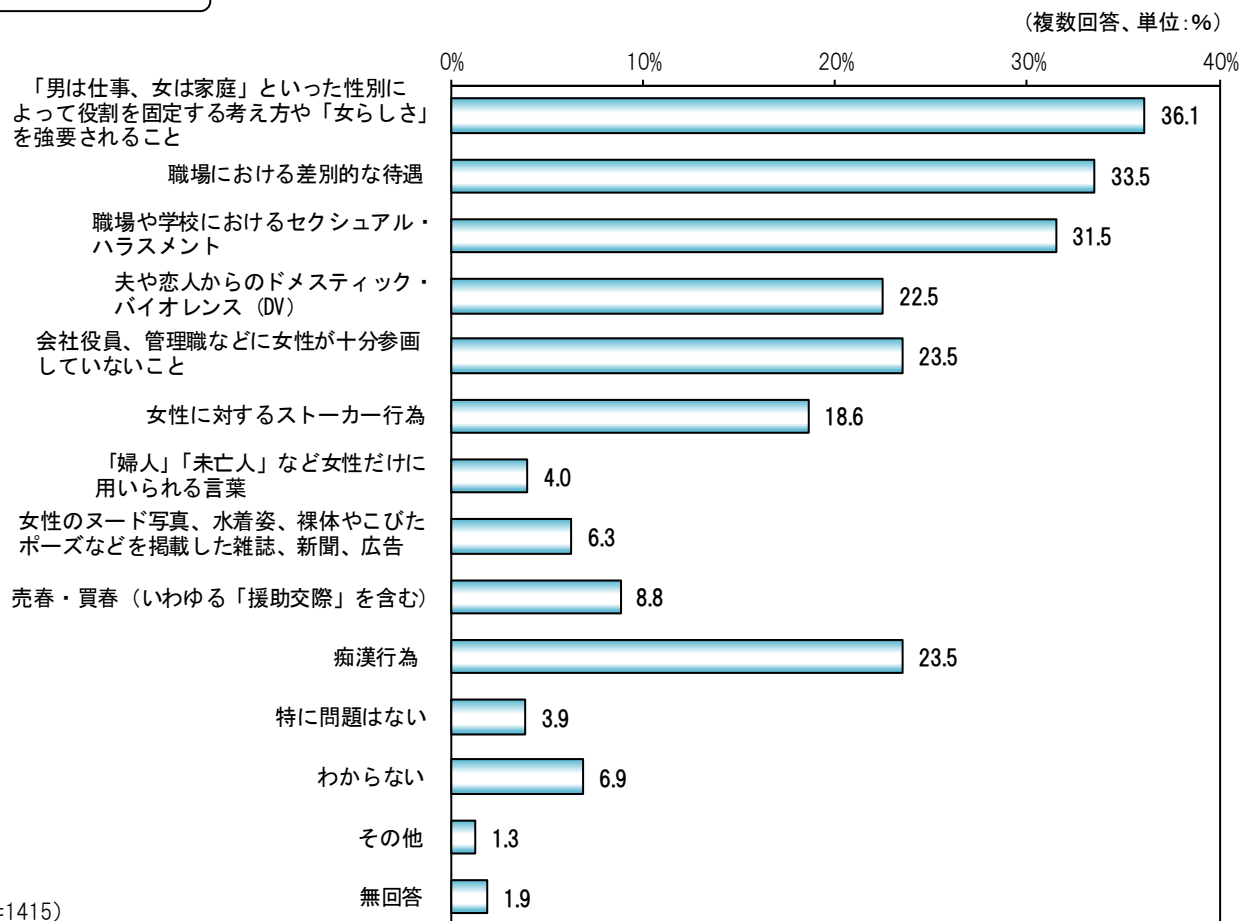
5. 女性の人権について

問14 女性に関する人権上の問題点

あなたは、女性の人権問題について、特に問題があると思われるのはどのようなことですか。次の中から選んでください。(〇は3つまで)

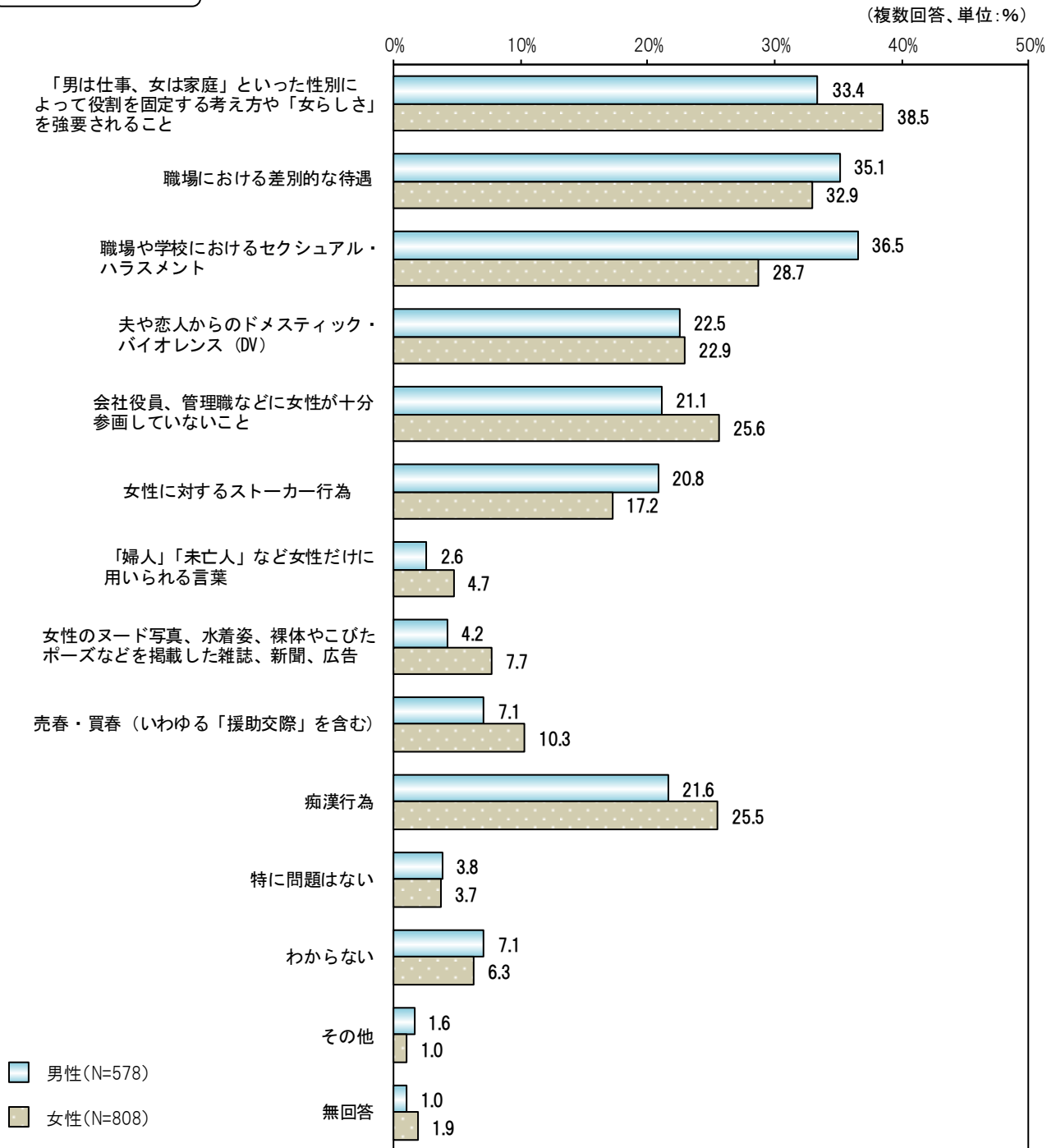
1. 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること
2. 職場における差別的な待遇
3. 職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント
4. 夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス (DV)
5. 会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと
6. 女性に対するストーカー行為
7. 「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉
8. 女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告
9. 売春・買春 (いわゆる「援助交際」を含む)
10. 痴漢行為
11. 特に問題はない
12. わからない
13. その他 ()

全体集計



「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が36.1%と最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」が33.5%、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が31.5%となっている。

性別集計



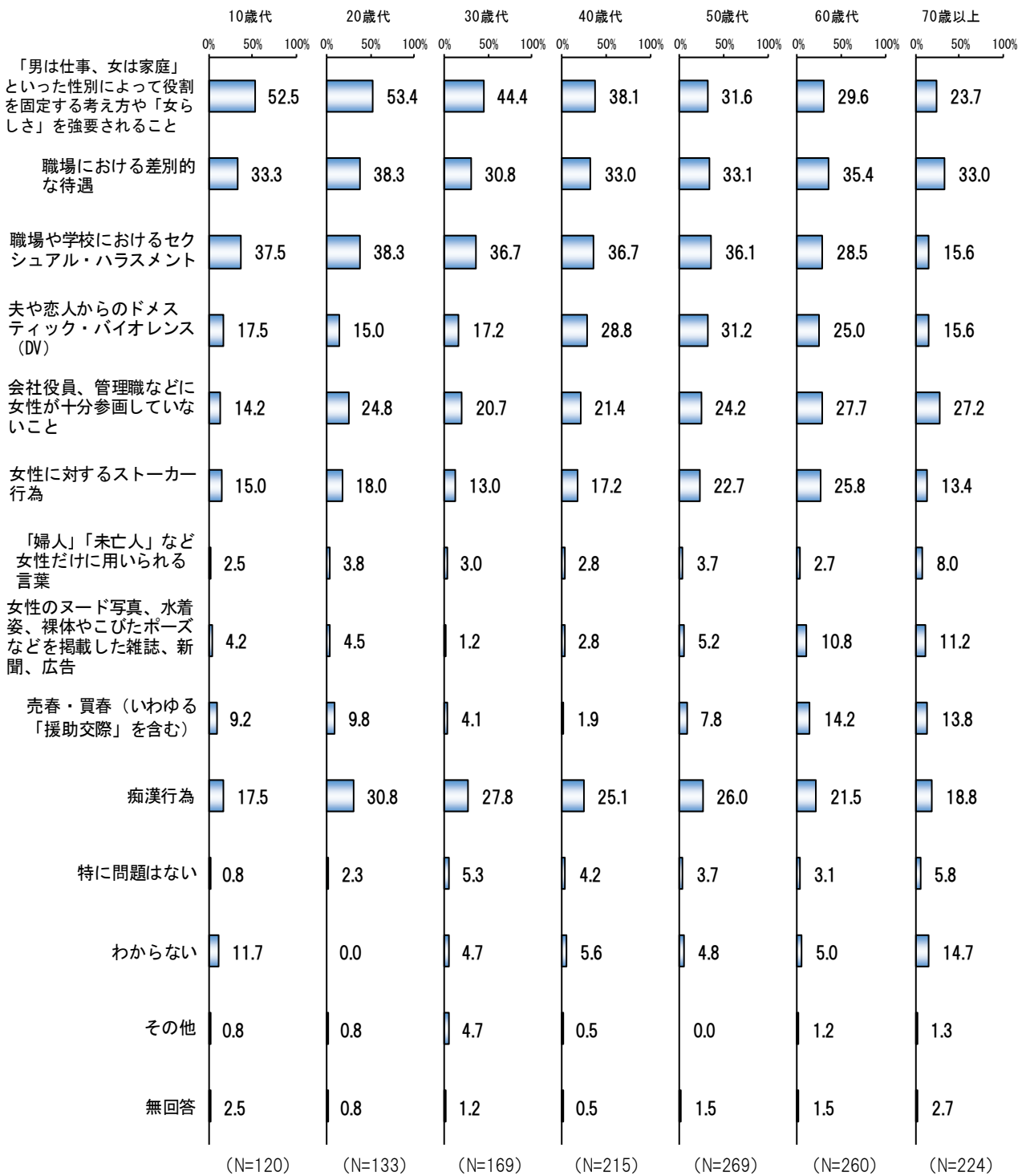
性別でみると、男性は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の順となっている。

女性は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」の割合が最も高く、次いで「職場における差別的な待遇」、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」の順となっている。

「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」が最も男女差が大きく、女性(28.7%)よりも男性(36.5%)の方が7.8ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位：%)



年齢別でみると、10～40歳代は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」、50歳代は「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」、60歳代以上は「職場における差別的な待遇」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較

割合が高い順に比較

	前回（平成25年度）		今回（令和元年度）	
1	職場における差別的な待遇	34.9%	「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること	36.1%
2	男女の固定的な役割分担	30.4%	職場における差別的な待遇	33.5%
3	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	27.6%	職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント	31.5%
4	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	24.9%	会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	23.5%
5	女性に対するストーカー行為	23.2%	痴漢行為	23.5%
6	議員や会社員役員、管理職などに女性が十分参画していないこと	22.6%	夫や恋人からのドメスティック・バイオレンス（DV）	22.5%
7	痴漢行為	19.7%	女性に対するストーカー行為	18.6%
8	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	10.9%	売春・買春（いわゆる「援助交際」を含む）	8.8%
9	わからない	10.4%	わからない	6.9%
10	特に問題はない	5.6%	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	6.3%
11	女性のヌード写真、水着姿、裸体やこびたポーズなどを掲載した雑誌、新聞、広告	5.5%	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	4.0%
12	「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉	4.6%	特に問題はない	3.9%
13	無回答	1.5%	無回答	1.9%
14	その他	1.2%	その他	1.3%

前回の調査では「職場における差別的な待遇」の割合が最も高かったのに対して、今回は「「男は仕事、女は家庭」といった性別によって役割を固定する考え方や「女らしさ」を強要されること」が最も高く、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」や「会社役員、管理職などに女性が十分参画していないこと」が上位に位置している。

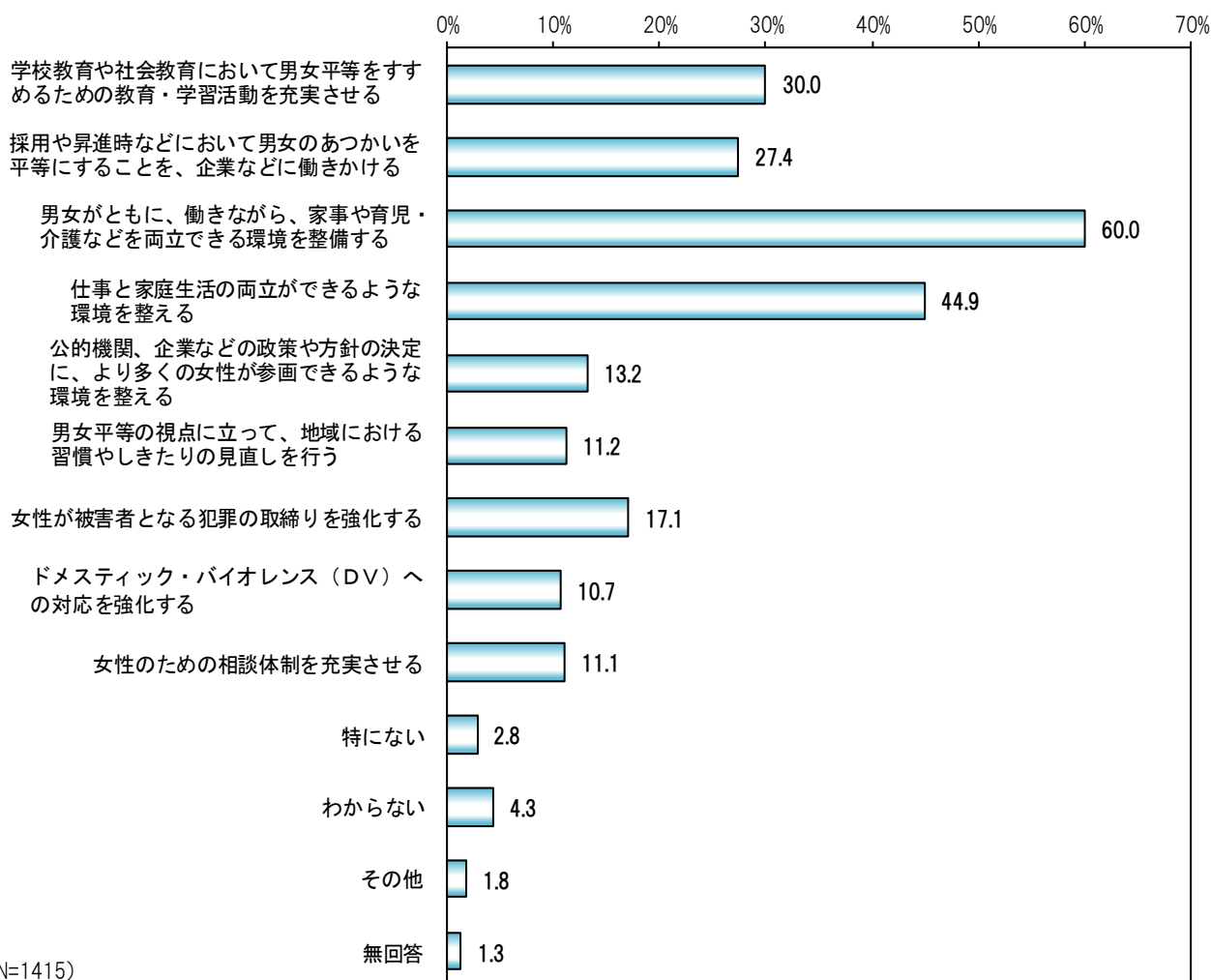
問15 女性の人権を守るために必要なこと

あなたは、女性の人権が守られるために、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。
次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1. 学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる
2. 採用や昇進時などにおいて男女のあつかいを平等にすることを、企業などに働きかける
3. 男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する
4. 仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える
5. 公的機関、企業などの政策や方針の決定に、より多くの女性が参画できるような環境を整える
6. 男女平等の視点に立って、地域における習慣やしきたりの見直しを行う
7. 女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する
8. ドメスティック・バイオレンス（DV）への対応を強化する
9. 女性のための相談体制を充実させる
10. 特にない
11. わからない
12. その他（ ）

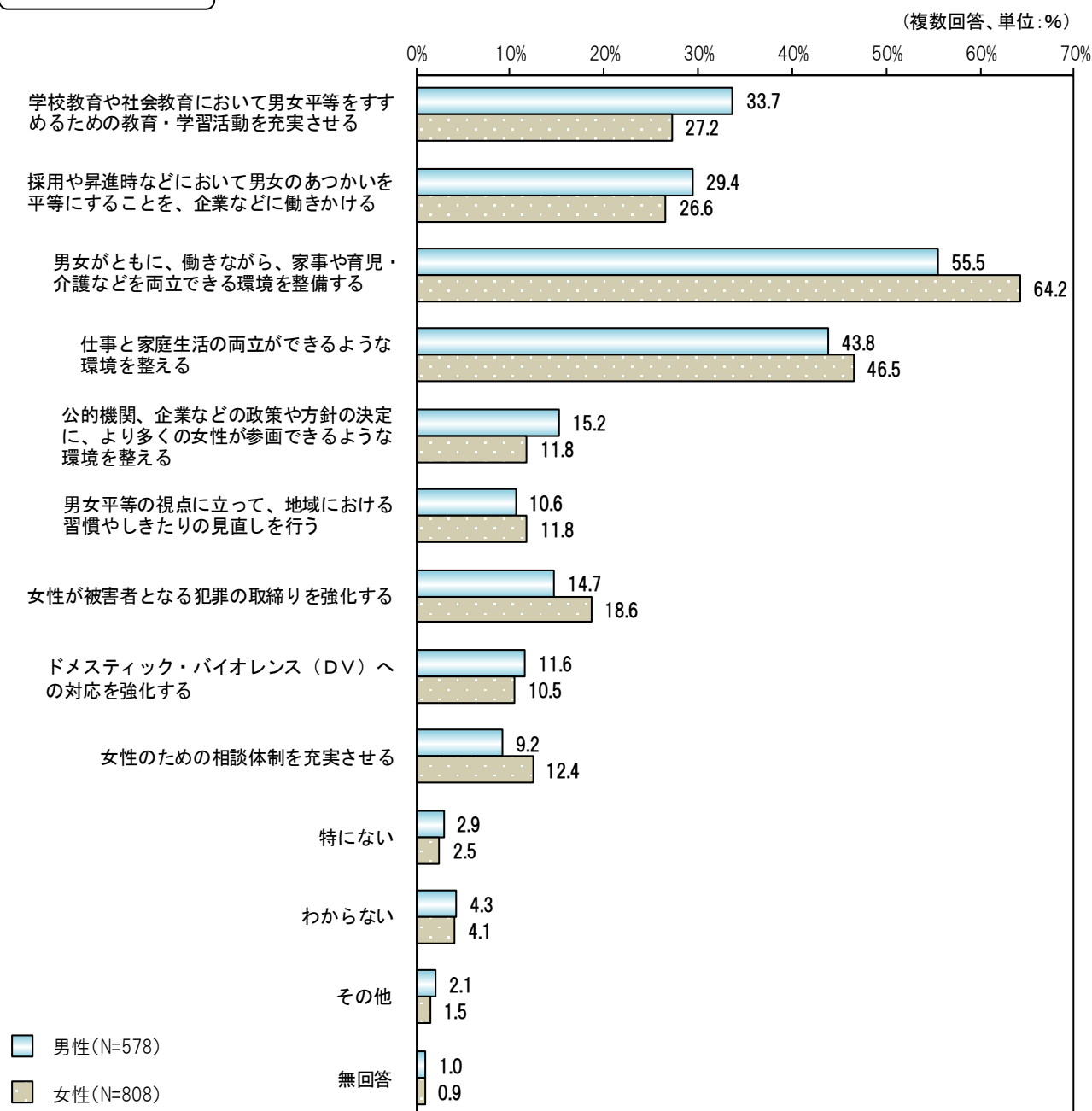
全体集計

(複数回答、単位：%)



「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が60.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」が44.9%、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」が30.0%となっている。

性別集計

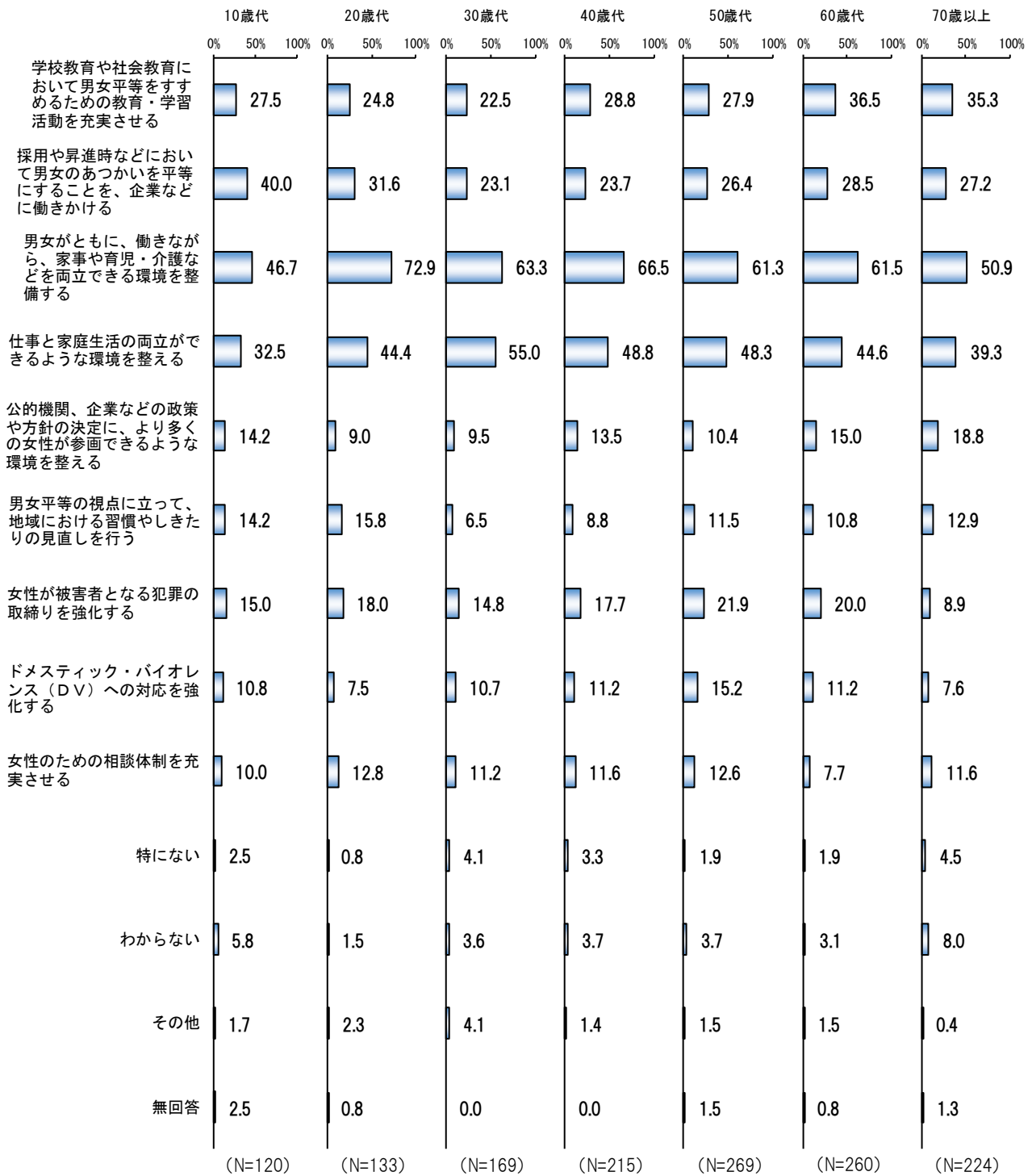


性別でみると、男女ともに「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高く、次いで「仕事と家庭生活の両立ができるような環境を整える」、「学校教育や社会教育において男女平等をすすめるための教育・学習活動を充実させる」の順となっている。

「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が最も男女差が大きく、男性（55.5%）よりも女性（64.2%）の方が8.7ポイント高くなっている。

年齢別集計

(複数回答、単位：%)



年齢別でみると、すべての年齢層で「男女がともに、働きながら、家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が最も高くなっている。